AG104

AGNI

取扱説明書

ご使用前に
必ず取扱説明書を読み
大切に保管してください

株式会社　岡本

はじめに

この度は、ＡＧＮＩストーブをお買い上げいただき誠に有難うございます。本商品は厳選された材料により製造された鋳物ストーブです。
当説明書を理解いただき、使用方法、メンテナンスを守っていただければ、長期に渡りご使用いただくことができます。

ストーブの据付は専門業者に行ってもらうよう、お勧めいたします。
ご自分で行う場合は専門業者のアドバイスを仰ぎながら行うようにしてください。
また、火災保険の適用条件について、保険会社に確認されておくこともお勧めいたします。

安全上のご注意

設置・ご使用の際のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産の損害を未然に防ぐ為に、必ずお守りいただくことを、次のようにご説明しております。

警告　この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定されることを表しています。

注意　この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定されること、および物的損害の発生が想定されることを表しています。

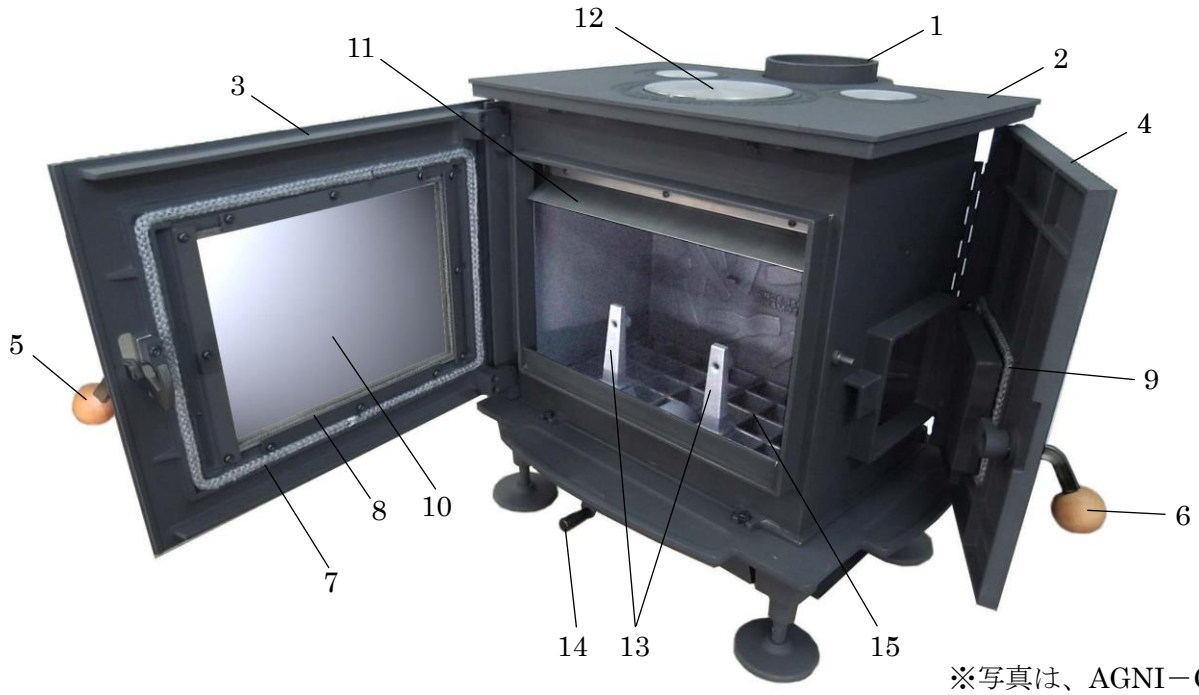
警告 薪ストーブ運転中は機器が高温になります。家具やカーテン等から十分に距離を取って設置してください。	**警告** 薪ストーブ運転中は全体が高温になります。火傷をしないよう決して素手で触れないよう十分に用心してください。操作の際は必ず革グローブ等を着用してください。
警告 薪ストーブ運転中のお部屋でお子様、ご高齢者、配慮が必要な方、ペットなどいらっしゃる場合は、フェンスなどを使用するか保護者の方が常に安全を確保してください。	**警告** 部屋は密閉せずに。空気が循環できるようにしてください。

警告 薪ストーブの近くで、洗濯物や衣料など燃えやすいものを乾燥させないでください。	**警告** スプレー缶や使い捨てライターなど爆発したり引火したりするおそれのあるものは、薪ストーブの近くに置かないでください。
注意 畳やじゅうたん、フローリングなど可燃物の上に薪ストーブを直接置かないでください。また低温炭化を防ぐため周囲の可燃物が 60℃にならないように配慮してください。	**注意** 最低でも年に一度は煙突掃除を行い、必要な場合はメンテナンスも行ってください。(使い方、施工方法、焚いている薪の質等によっては、より頻繁なメンテナンスをお奨めします。)
注意 薪ストーブの近くに薪を置いたり、薪ストーブの側で薪を乾燥させたりしないでください。	**注意** 燃焼中は薪ストーブの扉を開けたままそばを離れないでください。
注意 薪以外の燃料（プラスチック、ビニール、発泡スチロールなど）は絶対に燃やさないでください	**注意** 高温で薪ストーブを焚くと、本体を痛めることになります。必ず薪ストーブ用の温度計を使い、適温を守って運転してください。

目次

●各部の名称と機能・・・・・・・　1
●仕様・・・・・・・・・・・・・・　2
●薪ストーブ設置前の検討事項
　　1（煙突とドラフト)・・・　3
　　2（設置基準)・・・・・・　4
●組み立て方法・・・・・・・・・　5
●薪について・・・・・・・・・・　6
●薪ストーブを上手に焚く１・・・　7
●薪ストーブを上手に焚く２・・・　8
●究極のオーロラ燃焼・・・・・・　9
●メンテナンス・・・・・・・・・１０
●Ｑ＆Ａ困ったときは・・・・・・１１

各部の名称と機能

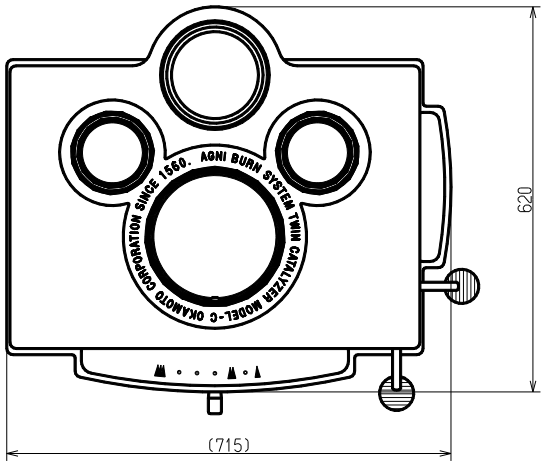


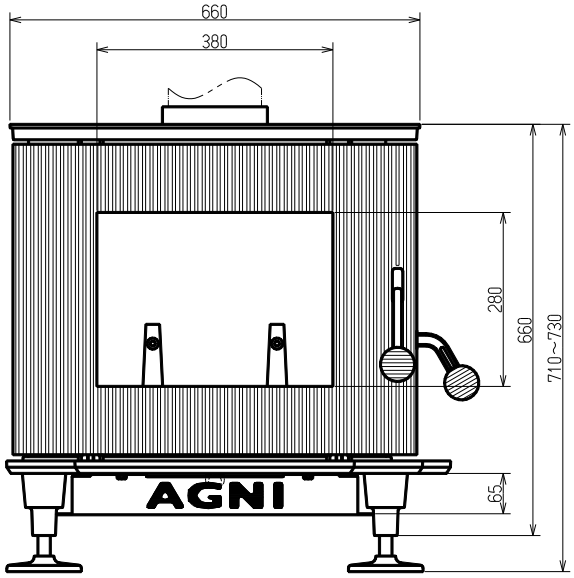
※写真は、AGNI－C

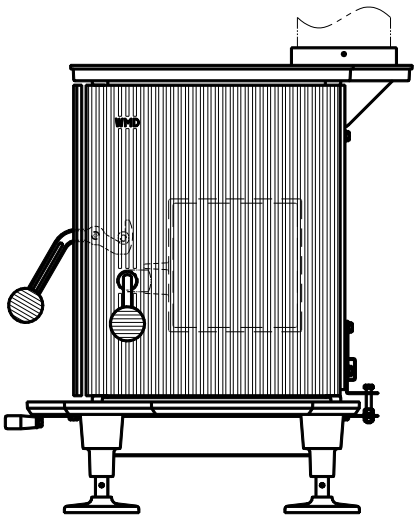
No.	名称	機能
1	口元	煙突を接続します
2	トップ（天板）	必ず、右又は左グリドルにストーブ用温度計を取り付けてください。 他グリドルには、鍋やケトルを置くことができます。
3	フロントドア	燃焼室ドアです。(燃焼中はサイドドアから薪を投入してください。)
4	サイドドア	
5	フロントドアハンドル	ドアの開閉を行います。 燃焼中は熱くなりますので、必ず革グローブをはめて操作してください。
6	サイドドアハンドル	
7	フロントドアガスケットロープ	余分な空気がストーブに入ってこないようにするパッキンです。消耗品ですので、劣化すれば交換が必要です・
8	フロントドアガラスガスケットロープ	
9	サイドドアガスケット	
10	フロントドアガラス	耐熱ガラスを使用しています。
11	バッフル板	プレヒーティングシステムを行うための給排気整流板です。給気口から入った空気は温められ、ここからストーブ内に入ります。(この時、２次燃焼を促します。) また、ガラス面に沿って上から下に温まった空気が流れる為、ガラスに煤やタールが付着するのを抑え、ガラスを曇りにくくします。
12	グリドル	
13	薪止め	薪の倒れ止めになります。オプションのピザセットも使用できます。
14	エアーコントロールレバー	ストーブ内に入ってくる燃焼用空気量を調整し、火力を調整します。
15	グレート	すのこ状になっています。
―	触媒（Ｐ５　梱包部品の取付け参照）	薪の未燃焼ガスを再燃焼させます。（３次燃焼）

仕　　様

■ＡＧＮＩ－Ｃの仕様■







・最大薪長さ・・・　55cm

・最大熱出力※1・・11,520Kcal(13.4Kw)

・暖房面積※2・・・165m² （50 坪）

・燃焼効率・・・・75%

・燃焼方式・・・・輻射式

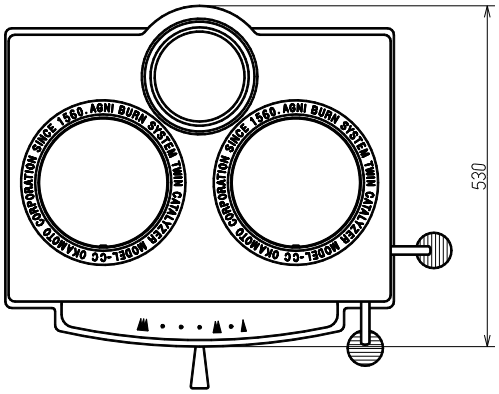
・重量・・・・・・200kg

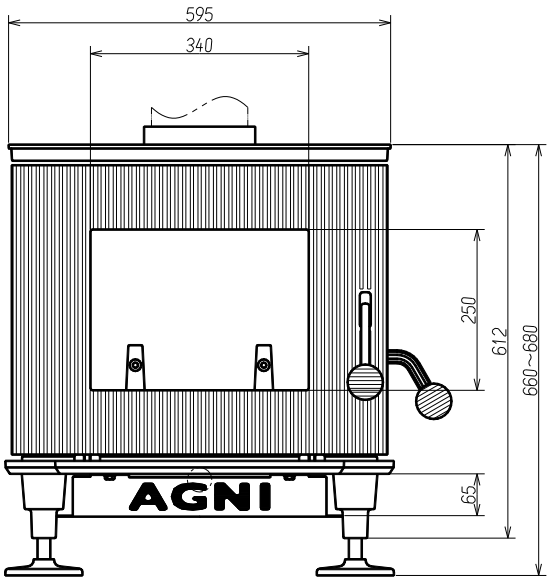
・薪投入口・・・・正面・側面

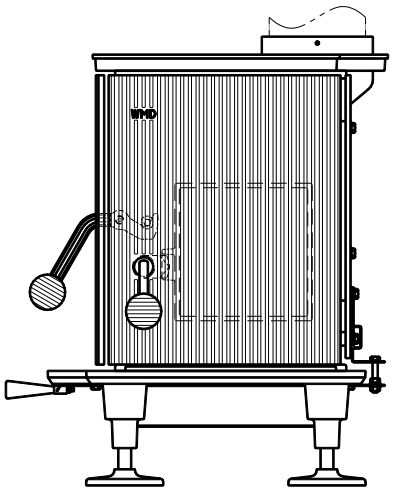
・煙突取付位置・・上

・空気調節・・・・１箇所

■ＡＧＮＩ－ＣＣの仕様■







・燃焼方式・・・・輻射式

・最大薪長さ・・・45cm

・重量・・・・・・200kg

・最大熱出力※1・・8,064Kcal(9.4Kw)

・薪投入口・・・・正面・側面

・暖房面積※2・・・115.5m² (35 坪)

・煙突取付位置・・上

・燃焼効率・・・・ 70%

・空気調節・・・・１箇所

※１　数値はストーブの運転方法、薪の種類、薪に含まれる水分の割合などの要因によって異なります。

※２　この数値は、目安の暖房面積を示しております。家屋条件等により異なりますので、メーカーまたは専門業者のアドバイスに従ってください。

薪ストーブ設置前の検討事項１（煙突とドラフト）

⚠ 火災の恐れがあります。下記の項目をお守りください。

薪ストーブは、煙突、使用する人、燃料、家屋からなる、１つの総合的なシステムの一部だと思ってください。全ての要素の相性がよいとストーブは効果的に働きます。薪ストーブの性能は、ドラフト（自然の通風力）次第です。

■断熱二重煙突

煙突は断熱効果のある多重構造になっている煙突を使用してください。
内側の煙突は高温になりますが、内側煙突と外側煙突の間に、高性能な断熱材が充填されているため、外側の煙突には熱が伝わらず、周囲の構造物を高温から守り、また煙突内を通る煙の温度も下げません。断熱二重煙突の内側の煙突は、シングルの煙突にくらべ、非常に早く温度が上昇します。外観的にはレンガや石の煙突の方が風情がありますが、断熱二重煙突の方が耐久性、性能とも非常に高いのです。

■煙突のレイアウト

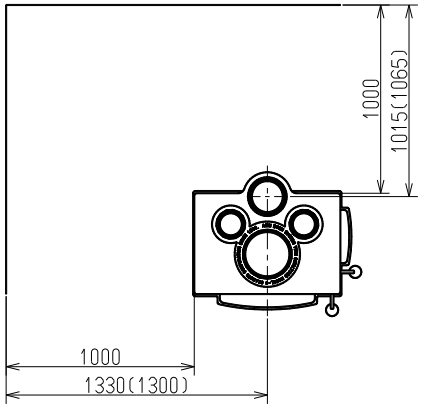
煙突の曲がりは、ストーブから煙突トップに至る排気の流れにとって障害になります。理想的なレイアウトは、ストーブから煙突トップまで曲がりがなく、まっすぐ上に伸びるタイプです。ストーブの性能が最もよく発揮され、メンテナンスも容易ですので、できるだけこのようなレイアウトにしてください。

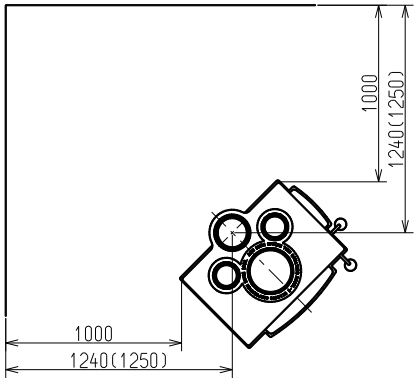
■煙突の長さ（高さ）

煙突の長さは、長くなるほど良好なドラフトが得られます。ＡＧＮＩストーブでは最低長さ 5m以上をお奨めします。又長すぎる（10m以上）場合ドラフトが強くなりすぎる場合が有ります。その場合は煙突にダンパーの設置をお奨めします。

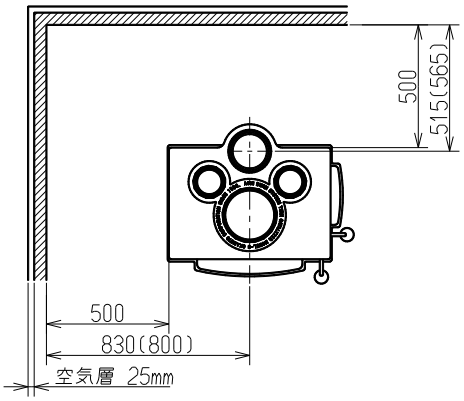
薪ストーブ設置前の検討事項２（設置基準）

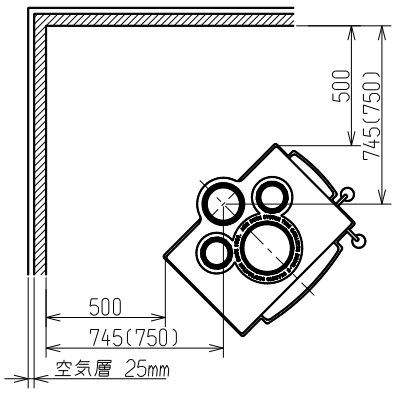
耐火処理されていない場合（※1 火災予防条例〔例〕）





耐火処理されている場合





※1 火災予防条例は、自治体ごとに定められていますのでご確認ください。

※ （ ）寸法は、AGNI－CC の場合をさします。

※ 耐火処理されている壁とは、可燃材と不燃材の間に 25ｍｍ以上の空気層のある不燃材の遮断壁を設けた場合をさします。

※ ストーブの下にも耐火処理が必要です。可燃物の上に直接設置した場合は輻射熱により、火災の原因となる危険性があります。

※ **離隔距離を指定値より縮める場合は、施工販売店にご相談ください。**
（国土交通省告示第 225 号：「準不燃材料でした内装仕上げに準ずる仕上げ」など）

設置基準に従わない場合、煙突火災や住宅火災など危険な状況を引きおこす場合があります。

組み立て方法

■開梱

当商品は非常に重量があります。けがのないように、また薪ストーブを傷つけることのないように、慎重に取り扱いしてください。
まず炉内に収められている部品を全て取り出し、下記の部品が入っているか確認してください。

梱包部品

①フロントドア　ノブ × 1
②サイドドア　ノブ × 1（①と同品）
③触媒 × 2
④グリドル　AGNI－C × 1、AGNI－CC × 2
⑤薪止め × 2
⑥温度計 × 1

■設置場所

本体は平らな場所に設置してください。不安定な場所での設置は転倒や脚の破損の原因となります。
引火性のある液体（ガソリン、灯油など）やスプレー缶などを本体の上や近くに置かないでください。
爆発や引火による火災の原因となります。

■梱包部品の取付け

【①②ノブ（ﾌﾛﾝﾄ,ｻｲﾄﾞ）のセット】

【④グリドルのセット】

【③触媒のセット】

【⑤薪止めのセット】

※写真は、AGNI－C

薪について

■広葉樹と針葉樹

燃料となる薪には、大きく分けて針葉樹と広葉樹があります。
針葉樹は軟木、広葉樹は堅木とも呼ばれています。広葉樹は密度が高く火持ちの良いのが特長です。一方、針葉樹は広葉樹に比べ密度が低く、樹脂や精油成分が多く含まれています。そのため針葉樹はすぐに燃え尽きてしまい薪ストーブには不向きだといわれていますが、AGNI は独自の燃焼構造で針葉樹の長時間燃焼を可能にしました。
安価で入手しやすい針葉樹をメインの薪に利用できることは、大きなメリットです。

■薪の乾燥

燃料となる薪は十分に乾燥させたものをお使い下さい。
乾燥済みの薪を購入した場合はすぐに使用できますが、ご自分で伐り出した木は乾燥が必要です。原木を 40～50cm 程に玉切りし（最大薪長は AGNI-C:55cm、AGNI-CC:45cm)、斧や薪割り機で割ります。薪を割ることで空気に触れる面積が多くなり乾燥が早くなります。たとえ直径 10cm ほどの枝でも、丸太のままよりも割った方がより乾燥が早くなります。
割った薪はよく乾燥するように風通しの良い場所に積んで雨に濡れないよう屋根で覆います。その際、切断面を上に向けて積み上げて下さい。乾燥には最低 1 年以上の期間が必要ですので、薪ストーブ導入 1 年前から薪の準備をしておくと良いでしょう。

《薪の含水率》

伐ったばかりの木には水分が多く含まれ、含水率は 30～50%です。薪ストーブの燃料となる薪の含水率は 20%以下が理想だといわれています。適切な乾燥状態を知るには、含水率計という測定機器で計ることも出来ます。

（玉切りのみの場合は、1 年以上乾燥しても含水率が 20%以下にならないことがあります。）

薪ストーブを上手に焚く　1

■温度計と設置適温

・温度計は薪ストーブトップ左右のグリドルに設置して下さい
・燃焼時の適温は 250℃～380℃です
・巡航燃焼時は 300℃前後で燃焼してください
・全開燃焼時は 400℃を超える温度になる場合が有ります。
・380℃以上の燃焼は、薪ストーブが破損する恐れがありますので、エアー調整を絞ってください。

■着火方法

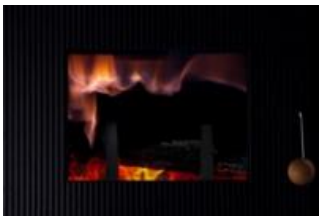
１．なるべくたくさんの薪を炉内に入れます。
２．薪は下から、太薪・中・小・細の順に積み上げます。
３．エアー調整は全開。
４．一番上の細薪に着火剤又はガスバーナーで着火します。
　（プレヒートで使用した着火剤がある場合は、それを使用できます。）
５．ドアを閉めますが、完全にロックせず 5mm ほどの隙間を開けておきます。
６．トップのメンテナンスプレートに薪ストーブ用の温度計をセットします。
７．トップの温度が 100℃になるまで、ドアの隙間は開けておいて下さい。
８．100℃を超えたらドアを完全に閉めます。
９．エアー調整は全開のまま、トップの温度が 300℃を超えるまで燃焼します。
　（300℃を超えるのに 30 分から 1 時間ほど掛かります。）
１０．300℃を超えたら、炎の状態を確認しながらエアー調整を行って下さい。
※燃焼はトップの温度計 300℃前後で燃焼して下さい。
燃焼温度が高いとストーブが破損する恐れがあります。
また低温では煙が出る場合があり、煙突内に煤もたまりやすくなります。

■薪の追加

巡航運転時は、1 時間に約 2kg 前後の薪の量が燃焼します。
薪の追加は炎の状態やトップ温度の状態を見ながら適当な間隔で行って下さい。
１．薪の追加はサイド扉を利用して下さい。
　（フロント扉は煙が逆流する場合があります。）
２．薪を追加する場合は、なるべくたくさんの薪を炉内に入れて下さい。
３．薪を追加した場合は温度計が 300℃以上になるまでエアー調整を全開にして下さい。（煙突から煙が出にくくなります。）
４．300℃を超えたら、炎の状態を確認しながらエアー調整を行います。

燃焼中はサイドドアから薪を投入してください。
燃焼中にフロントドアを開けると炎や煙が出てくる恐れがあります。やけど、火災の原因となります。

■最小燃焼（エアー調整を全閉）



エアー調整を全閉燃焼しますと、1 時間当たり約 1.5kg 前後の薪の燃焼になります。巡航運転中にエアー調整を全閉するとオーロラ燃焼になります。
炉内で炎がなく触媒燃焼をしているときは、薪の量・燃焼温度等、条件によっては煙突から煙が出る場合があります。
エアー調整を全閉にしても最低限の空気は供給されますので炎が消えることはありません。エアー調整を全閉で燃焼する場合は、一旦全開で燃焼させ、薪全体に炎が回ったのを確認してから全閉にして下さい。

薪ストーブを上手に焚く　２

■最大燃焼（エアー調整を全開）

エアー調整を全開で燃焼しますと、1 時間当たり約４Kg 前後の薪の燃焼になります。全開運転を続けますとトップ温度が 380℃を超える場合があります。
380℃を超える燃焼を続けますと、薪ストーブの鋳物が変形・破損する場合がありますので、エアー調整を行い 380℃を超えないようコントロールして下さい。

■巡航運転

適度なエアー調整での燃焼は、1 時間当たり約２Kg 前後の薪の燃焼になります。巡航運転時はトップ温度が 300℃前後になるよう薪の量やエアー調整をしながら、美しい炎をお楽しみ下さい。

■慣らし焚き

●購入後、最初に火入れする前の準備
AGNI 薪ストーブの火室床面はロストル構造になっています。燃焼時にはここに灰がたまり断熱・保温・蓄熱の効果を得る構造になります。
ストーブ販売店等から、から灰を調達できる場合は灰をストーブ内に入れてから慣らし焚きを行って下さい。灰が手に入らない場合は、灰なしで慣らし焚きを行っても問題はありません。その場合、広葉樹の薪を焚くと早く灰がためられます。

●慣らし焚きは、温度計で 300℃以上にならないように空気調整をして焚いて下さい。
　300℃になったら薪を追加せず、そのままの状態でストーブを常温まで冷まして下さい。
●慣らし焚き時には、薪ストーブに塗ってある耐熱塗料から煙がでます。窓を開けて換気をしながら焚いて下さい。
●慣らし焚きは３回ほど行って下さい。耐熱塗料からの煙も出なくなります。

慣らし運転の最中は、ストーブ温度計（オプション）の表示で 380℃を超えることがないよう注意が必要です。ストーブ本体を痛めます。

**また最初の数回は、ストーブ、あるいは煙突表面から煙が出ることがありますが、これは表面の塗料が焼けることで発生します。
害はありませんが、十分な部屋の換気をおすすめします。**

このストーブは、天然の薪を焚くように設計されていますので、それ以外の燃料は使用しないでください。圧縮加工された木材、塗装された木、合板、カラー印刷された新聞紙などは燃やさないでください。

生木や乾燥してない薪は、煙やクレオソートが多く発生しますので、絶対に燃やさないでください。又乾燥してない薪を燃やし、異常燃焼すると、ストーブ本体を痛めます。

究極のオーロラ燃焼

■究極とは・・・

●長時間オーロラ燃焼している。(薪からガスが発生している状態時にオーロラ燃焼が可能)
●空気を絞ってオーロラ燃焼しているのに、ストーブ本体の温度がドロップしない。
●オーロラ燃焼しているのにガラスが綺麗。
●オーロラ燃焼しているときも、煙突からの排気がきれい。(煙が出ない)

■オーロラ燃焼のコツ

《準備》
安定的なオーロラ燃焼するには、薪ストーブが適温に熱せられていなくてはなりません。
トップ温度が 300℃以上になるように、乾燥した薪を多めに入れエアー調整を全開で燃やします。

《オーロラ燃焼へ移行》
薪ストーブトップの温度が 300℃を超えたら徐々にエアー調整を絞ります。
(絞りすぎは煙突から煙が出る場合があります。)
エアー調整は全閉又はその少し手前まで絞ります。
(この調整はケースバイケースで臨機応変に調整して下さい。)

《薪の追加》
究極のオーロラ燃焼しているときは、1 時間に 1.5～2Kg 前後の薪の燃焼になります。
オーロラの炎が消えかかる、又はトップ温度が下がってきたら、2.5～６Kg の薪を追加します。
薪を追加したらエアー調整は全開にします。
薪全体に火が回り始め、トップ温度が 300℃を超えたら、徐々にエアー調整を絞ります。
薪がいっぱい入っていれば２～3 時間ほどのオーロラ燃焼が持続します。

■最長燃焼時間

AGNI の最長燃焼時間を考察します。
AGNI 薪ストーブには広葉樹で約 18Kg、針葉樹で約 12Kg の薪が入ります。
オーロラ燃焼時には 1 時間に 1.5～2Kg の燃焼になり、単純に 18Kg を割ると 9～12 時間の燃焼時間になる計算です。
その時の薪ストーブ内は熾きになった薪が多量に残っています。
カタログ公称値の 10 時間は十分クリアできます。
※これらのデータは当社での燃焼結果を基に公表しています。
薪の乾燥・太さ、煙突の長さ・ドラフトなど薪ストーブ本体の性能以外のファクターにより燃焼結果が変わる場合があります。

メンテナンス

■灰の処理

●灰はなるべく抜かずに、多めの状態で焚いて下さい。
●灰を抜く場合は、薪ストーブの消えている時に行って下さい。
●やむを得ず燃焼中に灰を処理する場合は、下火になったタイミングで行って下さい。
その場合やけど等には十分気をつけて下さい。
●灰を取り去る場合は灰取り用のシャベルを使用して、炉内から直接灰を抜いて下さい。
●抜き取った灰は、蓋付きの専用バケツ等にしまって下さい。
●灰は高温で残り火があります。専用容器で完全に温度が下がるまで保存して下さい。

ヒント

ストーブ内の灰は全て取り除かないでください。
３ｃｍほど残しておきますと次の着火がしやすくなりますし、断熱効果が増し、さらに薪ストーブの保護にもなります。

⚠ ストーブの灰は掃除機で吸い取ってはいけません。
灰は必ず指示された方法で取り除いてください。

■触媒の点検

●触媒の点検・清掃は、薪ストーブが消えている時に行って下さい。
●作業は軍手等の保護具を着用して行って下さい。
●トップのメンテナンスプレートを外すと触媒を外すことができます。
●触媒の目詰まり・ヒビ・欠けが無いかを点検して下さい。
●破損がある場合は触媒を交換して下さい。
●触媒は 12000 時間が交換の目安です。

■煙突の点検、清掃

●煙突は１年に１回以上点検・清掃して下さい。
●煙突トップが最も煤が付着します。煙道は室内から清掃可能ですが、煙突トップは屋根からの清掃です。
●ご自分で清掃できない場合は設置業者にご依頼下さい。

■ガスケットロープの点検、交換

●ガスケットロープが破損・へたっていないか点検して下さい。
●交換が必要な場合は、専用のガスケットロープ・接着剤を用いて交換して下さい。
●ご自分で交換できない場合は設置業者にご依頼下さい。

◎消耗品

誤った薪ストーブの使い方をしてしまうと次の部品が破損する可能性があり、破損すれば交換する必要があります。詳しくは販売店までご相談ください。

・ドアガスケットロープ　・ドアガラスガスケットロープ　・ドアガラス　・バッフル板　・触媒

Q&A　困ったときは

Ｑ１：燃焼中にガラスが曇るのは？

Ａ１：温度が低すぎませんか？　トップの温度計が 300℃になるよう燃やしてみて下さい。
Ａ２：空気を絞りすぎていませんか？　エアー調整を開けてみて下さい。
Ａ３：薪は十分乾燥していますか？　１年以上乾燥した薪を使って下さい。

Ｑ２：薪の投入タイミングがわかりません？

Ａ１：薪は 30 分毎でも、１・２…６時間毎でも適当な間隔で投入して下さい。
Ａ２：投入する時は、なるべくたくさんの薪を投入して下さい。
Ａ３：投入後はトップの温度が 300℃になるまでエアー調整を全開にして下さい。
　　300℃に達したら、エアー調整を好みの位置に調整して下さい。

Ｑ３：トップの温度が３００℃になりません？

Ａ１：薪を太割から中割・小割に変えて下さい。小割りをたくさん使用しますと温度が上がります。
Ａ２：薪が湿っていませんか？　薪は十分乾燥したものを使いましょう。
Ａ３：煙突のドラフトが弱くありませんか？　設置業者に相談してみて下さい。
Ａ４：温度計が正常に作動しない場合があります。もうひとつ温度計を購入してみて下さい。
Ａ５：広葉樹は温度が上がりにくい場合があります。針葉樹も使って下さい。

Ｑ４：触媒なしでも燃焼できますか？

Ａ１：触媒なしでも一般的なクリーンバーンストーブとして燃焼可能です。
　　ただし、燃焼効率が触媒ありに比べて約２割ほど悪くなります。
　　（燃焼温度が下がる＞煤や煙が出やすくなる＞温度を上げるため空気量が多くなる
　　＞燃焼に多くの薪が必要になる）

Ｑ５：煙が逆流して部屋に戻ってくる？

Ａ１：換気扇が回っていませんか？室内が負圧になると、煙が逆通することがありますので、薪ストーブ点火時は、換気扇を回すのは止めてください。着火時には窓を少し開けてください。
Ａ２：煙突トップが詰まっている可能性があります。確認の上すぐ煙突掃除を行ってください。
Ａ３：煙突内部及び口元が冷えていませんか？本体の排気口付近を火であぶって温めてください。
Ａ４：煙突の高さが低い可能性があります。煙突が短いと上昇気流が起こり難く、逆流の原因となりますので、販売店にご相談ください。

Ｑ６：火がつきにくい？

Ａ１：薪が湿っていませんか？充分に乾燥した薪をご使用ください。（１年以上乾燥させた薪）
Ａ２：煙突の上昇気流が弱い可能性があります。Q5-A4 と同じ対応になります。

Ｑ７：新しい薪ストーブに初めて火を入れた時に、煙と臭いがする？

Ａ１：新しいストーブに初めて火を入れたときは、表面塗装が焼けて、白い煙と臭いが発生します。
　　窓を開けて煙を室外に出し、３回ほど慣らし運転をしていただくと出なくなります。

Ｑ８：燃焼中に炎が横に流れる？

Ａ１：ガスケットロープが劣化していませんか？ガスケットロープが劣化して、ドアとの間に隙間が出来ると余分な空気が入って炎が横に流れる現象が起こりますので、ガスケットロープを交換してください。

【製品保証規定】

１．製品をお受け取りになられた日から、保証期間は開始されておりますが、保証の効力は製品保証書が弊社に届いてから開始されます。つきましては、製品をご使用になる前に必ず製品保証書を弊社までお送りください。

２．通常の基本保証年数は１年ですが、製品保証書にサインを頂いた方には、延長保証書をお送り致します。

３．延長保証書の場合は、以下の部品が対象になります。

触媒・・・・・・１年保証
バッフル板・・・３年保証
鋳物部材・・・１０年保証

４．故障又は不具合が発生した場合は、お買上げいただいた販売店に本保証書をご提示の上、修理をご依頼ください。

５．保証期間内でも、次の場合は保証が適用されません。

①製品保証書の提示がない場合
②日本以外の国での使用
③転売や又貸しされた場合
④不当な修理や改造が原因の場合
⑤輸送中に起きた損傷…この保証書では保証されません。
⑥火災、地震、水害、落雷などの天災による破損及び故障
⑦ガラス（割れ、白濁など）・ガスケットロープ等の炉内の取外し可能な部品
⑧不適切な使用による破損及び故障

６．製品保証書は再発行いたしませんので、お客様控えを大切に保管しておいてください。

この保証書に記載された内容で無料修理をお約束するもので、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

本書は大切に保管してください

AG104

製品保証書控

1年保証

延長保証をご希望の方は、下記をご記入いただき、弊社までご返送ください。

商品名		シリアルNo.	
お名前	フリガナ		
ご住所	〒（　　－　　）		
設置場所	〒（　　－　　）		
お電話	（　　）　　－	E-mail	
出荷日	年　　月　　日	販売店（住所・店名）	
保証期間	お受取日 年　　月　　日より 1年間		

返送頂いた保証書は「個人情報保護法」により厳重に当社で管理され、第三者に流すことは一切致しません。

操作手順をご理解していただけましたか？（ご理解いただけましたら☑してください。）
薪ストーブを安全、安心に使っていただく為に、正しい使用方法をご理解していただくことが必要です。

項　目	チェック
ご使用前に慣らし焚きを行ってください（Ｐ８参照） 鋳物を熱に慣らさせる必要があります。 いきなり高温で使用すると鋳物が破損する場合があります。	☐
ご使用中は、適切な温度管理を行ってください。（Ｐ７参照） マグネット式のストーブ温度計を付け、250～380 度で使用してください。 取付け位置は、天板の右又は、左グリドルに付けてください。	☐
乾燥した薪を使用してください。（Ｐ７参照） 乾燥が不十分な場合は、燃焼効率が悪くなり、本体の寿命を縮め破損する場合があります。	☐
灰は必ず３ｃｍ以上溜めて使用してください。（Ｐ９参照） 炉内底部は熱による負荷が掛かりやすい部分です。灰は断熱材の役目もし、火持ちが良くなり、焚きつけもスムーズになります。炉内を清掃した時も次の着火のための灰は保管してください。	☐
煙突、炉内のメンテナンスを最低年１回行ってください。（Ｐ１０、Ｐ１１参照） 定期的なメンテナンスにより、安全に使用することができます。	☐

操作方法を守らないと様々な事故に繋がる恐れがあります。
操作手順をよくご理解された上で、ご署名、ご捺印下さい

お客さまのご署名、ご捺印

印